【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【公開番号】特開2007-46349(P2007-46349A)
【公開日】平成19年2月22日(2007.2.22)
【年通号数】公開・登録公報2007-007
【出願番号】特願2005-232450(P2005-232450)
【国際特許分類】
Ｅ０３Ｄ　5/094　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０３Ｄ　5/094

【手続補正書】
【提出日】平成20年7月25日(2008.7.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
玉鎖を引張るためのレバーにおいて、
回転軸を中心に回動可能なレバーアームと、
前記回転軸から離れた前記レバーアームの所定箇所に設けられた、玉鎖を取り付けるための鎖取付部と、
前記鎖取付部が、前記玉鎖中の一つの玉を回動可能に支持する玉受け座と、
前記玉受け座に支持された前記玉から前記玉鎖を引張る方向とは逆の方向へ出た紐を通すための、前記玉受け座に設けられた紐逃がし孔と、
を備え、
前記紐逃がし孔は、前記紐が前記レバーアームに対して前記レバーアームの回動方向と平行な方向へ揺動し得る第1の角度範囲の領域にわたって開口しているとともに、前記紐が前記レバーアームに対して前記回動方向と直交する方向へ揺動し得る第２の角度範囲の領域にわたっても開口しており、
前記鎖取付部が、前記玉鎖がほぼ真っ直ぐな状態のままで前記レバーアームに対して揺動可能なように前記玉鎖を支持する、玉鎖引張り用レバー。
【請求項２】
請求項１記載の玉鎖引張り用レバーにおいて、
前記玉受け座は、上方へ開口した球状凹面を内側にもつ全体的にボウル状のものであり、
前記玉受け座の第1の角度範囲および第２の角度範囲に相当する領域が開口することにより、前記逃がし孔が形成されている、玉鎖引張り用レバー。
【請求項３】
請求項１記載の玉鎖引張り用レバーにおいて、
前記レバーアームの前記鎖取付部の近傍の箇所に設けられた、前記鎖取付部の近傍から水滴を排除するための水抜き手段をさらに備えた玉鎖引張り用レバー。
【請求項４】
請求項１記載の玉鎖引張り用レバーにおいて、
前記鎖取付部に一端部が取り付けられた第1の玉鎖と、
前記第1の玉鎖の他端部と、前記第1の玉鎖から分離された第２の玉鎖の一端部とを連結し、かつ、第２の玉鎖からの水が前記第1の玉鎖に伝わらないように前記水を遮断する水止

めコネクタと
をさらに備えた玉鎖引張り用レバー。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明に従う玉鎖引張り用レバーは、回転軸を中心に回動可能なレバーアームと、回転軸から離れたレバーアームの所定箇所に設けられた、玉鎖を取り付けるための鎖取付部とを備え、鎖取付部が、玉鎖がほぼ真っ直ぐな状態のままでレバーアームに対して揺動可能なように、その玉鎖を支持する。
また、鎖取付部は、玉鎖中の一つの玉を回動可能に支持する玉受け座と、玉受け座に支持された玉から玉鎖を引張る方向とは逆の方向へ出た紐を通すための、玉受け座に設けられた紐逃がし孔とを有し、紐逃がし孔は、紐がレバーアームに対して揺動し得る所定角度範囲の領域にわたって開口している。
さらに、紐逃がし孔は、紐がレバーアームの回動方向と平行な方向へ揺動し得る第1の角度範囲の領域わたっても開口するとともに、紐が上記回動方向と直交する方向へ揺動し得る第２の角度範囲の領域にわたっても開口している。
レバーアームが回動すると、玉鎖がレバーアームに対して揺動するが、玉受け座内の玉が回動し、紐は紐逃がし孔内で揺動するので、紐はほぼ真っ直ぐな状態を維持できる。すなわち、揺動しても玉鎖は真っ直ぐな状態のままでいられ、従来のように強く折曲げられない。よって、可撓性を失った紐においても、玉鎖の紐はそれほど劣化しないので、玉鎖は切れ難い。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
好適な実施形態では、玉受け座は、上方へ開口した球状凹面を内側にもつ全体的にボウル状のものであり、玉受け座の第1の角度範囲および第２の角度範囲に相当する領域が開口することにより、逃がし孔が形成されている。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】